

ポイント

◆◆特集◆◆

★平成23年度道路交通管理統計の概要★

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

道路交通管理統計は、毎年、全国の道路管理者に調査のご協力をいただいて作成し、道路の管理体制等を的確に把握するとともに、道路の実態に即した望ましい道路交通管理のあり方を検討するための基礎資料としている。

本稿においては、平成23年度調査の結果について検証し、今後の課題を探る。

◆◆訴訟事例紹介◆◆

★豪雨による急激な増水のため道路冠水が生じ、
車両が水没し走行不能となったことについて、道路管理瑕疵が争われた事例★
〈平成23年9月7日 東京高裁判決〉

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

【事案の概要】

道路を走行中、豪雨により急激な増水による道路冠水が生じ、車両が水没し走行不能となったことについて、損害賠償請求。

【判決要旨（一部認容）】

本件は、水がたまりやすい現場状況であることから、適切な排水施設等の対策を講じる必要があった。その対策を怠ったことは、道路の管理に瑕疵があったといえる。

◆◆TOPICS◆◆

★LED発光パネル（ペースメーカー）を活用した渋滞緩和対策★

(NEXCO東日本 本社 管理事業本部 交通部 交通課
東北支社 管理事業部 交通技術課
関東支社 管理事業部 交通技術課)

NEXCO 東日本における高速道路での渋滞発生状況は、交通集中を原因とする渋滞が約7割を占めており、その内、上り坂及びサグ部での渋滞が約7割となっている。上り坂及びサグ部での渋滞の原因は、上り坂部での無意識の速度低下や車間距離が短くなった後続の車両がブレーキを踏み、減速波が後続車両に伝播することにより発生する。

NEXCO 東日本では、この速度低下を緩和するため、上り坂やサグ部等で道路脇に設置したLED発光パネルを進行方向に流れるように発光させることによりドライバーが光の走行に無意識に追従し、速度低下を軽減して渋滞発生が遅延及び渋滞中の速度向上を期待する対策を開発・運用した。ここに東北地方と東京湾アクアラインで実施した対策内容と効果について紹介する。

◇◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◇

★地域と連携した雪寒対策等の取組みについて★

(国土交通省 中部地方整備局 高山国道事務所)

高山国道事務所では冬期における円滑な道路交通を確保するため、除雪作業及び路面凍結防止作業など雪寒対策を実施しております。しかし、道路管理者による雪寒対策だけでは不十分なため、地域住民や道路利用者や行政及び警察などの関係機関と連携して、除雪ボランティアや除雪広報などの取組みを実施しておりますのでご紹介致します。

.....

★鳥取県の維持管理★

～ H23豪雪対応により見えてきた課題とその後の取組 ～

(鳥取県 県土整備部 道路企画課 維持担当)

本県では、平成23年豪雪（平成22年度）を経験したことから、冬期における除雪体制をこれまで以上に充実させることが重要と考えています。本稿では、H23豪雪対応により見えてきた課題とその取組について紹介します。

.....

★市が目指す今後の道路管理の方向性★

～道路アセットマネジメント及び地域で築く道路維持管理手法～

(鳥取市 都市整備部 道路課)

本稿では、鳥取市が目指している道路アセットマネジメントの特徴及び地域で築く道路維持管理手法について報告する。

◆◆編集後記◆◆

立冬が過ぎて、近所の公園の樹木たちがようやく色づき始めました。まだまだ秋の空気を感じていたいと思いつつも、もうすぐ12月。年の瀬に向かって忙しくなると、つい忘れてしまい、慌てて準備することが多いのが“年賀状”です。

日本には、昔から、年の始めに親戚や近隣の家々を訪問して回り、旧年中の親交に感謝し、新年の挨拶とともに近況報告をする「回礼（年始回り）」という習慣がありました。しかし、交流する人の地域や範囲が広がると、遠方に住む人へ直接「回礼」をすることが難しくなり、その代わりとして、“書状”を用いて新年の挨拶をするようになりました。これが“年賀状”の始まりと言われています。

明治6年、当時、ヨーロッパで人気が高かった「ポストカード」を参考に、日本で郵便はがきが発行されました。郵便はがきの料金は、全国一律であるため、重さによって料金が高くなる手紙に比べて、手軽で安価なことから、年賀状にはがきを利用することが次第に広まり、定着していきました。ちなみに、お年玉付き年賀はがきの発行は、昭和24年であるとのこと。

今でこそ、パソコンやカラープリンター、年賀状作成ソフトなどの便利なツールが増え、家庭で手軽に美しい年賀状を印刷できるようになりましたが、20年程前までは、宛名や賀詞を手書きし、消しゴム版画で干支の絵柄をスタンプするなど、工夫を凝らして、一枚ずつ時間をかけていたことを懐かしく思い出します。

電子メールの普及によって、新年の挨拶をメールで済ませる人が増え、年々、はがきによる年賀状は減少傾向にあるようですが、年に一度の新年のご挨拶。パソコンで印刷された文面だけでは、寂しい印象がありますが、何年も会っていない友人から結婚や子供の成長報告などがひとこと手書きで添えられていると、心を込めて書いてくれた気持ちが伝わり、嬉しくなります。

今年もそろそろ準備を始める時期。ゆとりをもって、心を込めたひとことを書き添えた年賀状を準備したいと思っています。(K) .